中り川よ荒だ

青い雲

教育目標
「めあてをもち　自分で考え　ねばり強くやり抜こう」
目指す学校像：「あいさつ がまん あとしまつ」ができる生徒

村上市立荒川中学校
令和５年度第10号
令和６年１月12日発行

あと一歩、もう少し自分を高める

校長　渡辺　安治

令和六年、新しい年が始まりました。今年もよろしくお願いします。元旦から能登半島地震をはじめ、航空機事故など、信じられない出来事が起きています。これらのことから、日本中の人々が心を痛めています。亡くなられた多くの方々に対しまして、心よりご冥福をお祈りいたします。そして一日も早い、災害からの復興を切に願っています。

三学期がスタートしました。生徒は寒さに負けず、授業に集中し、部活動もがんばっています。教室や体育館からは、明るく活気のある声が響いてきます。今学期は登校日が五十一日（三年生は三十九日）と短く、学年のまとめと進学・進級に向けてしっかり準備をして、力を更に発揮する大切な期間でもあります。始業式では、各学年の代表生徒が新年の抱負を発表しました。高校入試に向けて、より一生懸命に勉強することや進級に向けて、勉強と部活動の両方に力を入れて取り組む意気込みなど、決意も新たに力強く発表しました。私は目標を定め、達成するための計画をしっかり立てることを大事にしてほしいと語りかけました。その繰り返しが徐々に力をつけることにつながり、夢の実現にも近付いていくと思います。つらいときもあるかもしれませんが、がんばってほしいです。先生方や大人にも相談して、力を借りることも大事です。

年末、当校の卒業生三名が学校を訪ねてくれました。今年三十二歳になる社会人です。彼らは当時を思い出し、学んだ教室が懐かしいと感慨一入でした。また、卒業アルバムを見ながら、仲間の活躍を紹介してくれました。現在三人はそれぞれの立場で仕事を頑張っています。今後、ますます忙しくなり、職場でも頼りにされる立場になるので、健康に気を付けて頑張ってほしいとエールを送りました。帰り際に後輩たちへ伝えてほしいと語ってくれました。「中学校時代は思い出が沢山あり、貴重な時間だったと実感します。もう一度、荒中の生徒に戻って仲間に会いたいです。後輩の皆さんには、今を大事にしてみんなと仲良く、いい思い出をたくさん作ってほしいです。その思い出が、社会に出て働くときの頑張れる力になります。」私は後輩を思い、社会人として成長を続ける卒業生三人が、眩しく見えました。荒川中学校に勤めさせてもらい、よかったと心から感謝しています。

毎年この時期、生徒には地域の行事に参加してほしいと伝えています。「塞ノ神」「ホヤホヤ」と言われる伝統行事は、家内安全、学業成就、受験合格などを祈願するそうです。近所の小中学生にお声がけいただき、お誘いくだされば幸いです。今年もお世話になりますが、どうかよろしくお願いします。